

# ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所  
士別市東7条9丁目  
Tel0165-22-3100  
fax0165-23-4356

# 憲法意見書可決 数の暴挙、道議会でも!

## 荒れた最終日

令和元年第3回定例会の最終日は、荒れた議会となり、午後10時直前に閉会する事態となりました。

それは、自民党派が、事前提案という従来のルールを破り、急施(きゅうし)を要する案件として、「国会における憲法論議についての意見書」が提案され、その取り扱いを巡ってでした。

当初は、この意見書に慎重な態度をとっていた公明



党会派が、修正案を求めて賛成に転じ、私たち民主・道民連合議員会と日本共産党会派は反対、一方北海道結志会は退席して賛否に加わらない対応となりました。

## 急施として提案?

私たちは、「これが急施(きゅうし)を要する案件なのか」「この意見書が道民生活に必要なものなのか」「どのように憲法を変える議論を進めようとしているのか」など、提案に対する質疑を行い意見書に反対の討論も行いましたが、自民党

## 自民党派は喫煙室設置

「喫煙室は設置しないで…」など、多くの道民の声を無視し、自民党派は道議会新庁舎に喫煙室設置を10月4日の議員総会で決めました。

自民党派以外は、設置しないことをすでに決めており、自民党派の動向が注目されていましたが、会派内のアンケート調査により、設置賛成が6割を占めたとのことで、設置することとしたのです。

しかし、北海道医師会の長瀬清会長などは批判を強めており、私たちも道議会の総意として、設置しないように求めていかなければなりません。

及び公明党派の賛成多数で可決してしまいました。

本来意見書は、全会一致を基本としており、道民の間でも賛否が分かれている案件を緊急かつ強引に採決することは、議会制民主主義に反するものです。

## 立憲主義にも反する

日本国憲法では、主権者を国民と規定し、国家権力が暴走しないように厳しく制限しています。これがいわゆる立憲主義の精神なのです。したがって、この意見書を内閣に提出すること自体が立憲主義に反しており、認められるものではないのです。

## 道新社説で異論

100名の定数のうち53名の議席を獲得した自民党派は、道議会においても数々の力で強引な議会運営を進めており、これらには目も余るものがあります。

10月6日の北海道新聞の社説でも、次のように述べられています(抜粋)。  
『北海道新聞が7月に行った全道世論調査では改憲不要派が58%と、改憲派の37%を大きく上回った。意見書が民意を反映しているとは到底言えない。しかも、全会一致で可決する意見書の原則を破って自公が押し切った。これでは道民の分断を招くだけである。』

第三回定例道議会報告(9月10日~10月4日)

103億円を補正

鈴木知事は、補正予算案として、一般会計に100億1500万円、特別会計に3億3500万円を追加提案し、合計103億5000万円の補正額となりました。

補正予算の内容は、来春からの新千歳空港発着枠拡大関連で1050万円、胆振東部地震の被災三町が行う営農用水施設改修事業に11億4600万円、来年4月に開校する「道立北の森づくり専門学院」の設備整備で3億5500万円、知的障がい者養護学校校舎の狭隘化の解消を図るため札幌や美唄、北見の特別支援学校の施設整備に6100万円などを計上しました。

知事の思い伝わらず

わが会派の代表質問では、知事に対し、国との関係を

質問。国の職員3名を道幹部職員に発令することは、まさに国追従型道政になるとの危惧を示しましたが、知事答弁からは、自立に向けた強い意思を感じることはできませんでした。

また、高橋道政の事業再評価や次期北海道創生総合戦略についても質しましたが、いずれの答弁でも総花的な課題認識であり、新たな政治姿勢や考え方は見えず、財政運営も従来の取り組みを踏襲するだけです。

さらに、第2回定例会の政策補正予算で提案された重点政策「ほっかいどう応援団会議」については、再三にわたり目的などを問いましたが、道の主体性が発揮されておらず、政策的目標や同会議の役割なども明らかになりませんでした。

認識薄い福祉政策

幼児教育・保育の無償化

第3回定例会で可決された補正予算

単位：千円

Table with 4 columns: Category, General Account, Special Account, Total. Rows include Initial Budget, This Year Correction, and Total.

の対象でありながら、手続上、無償化とならない事業への対処については、手続きの説明会の開催や当該施設に対して速やかな届出の周知を行ったとの答弁にとどまりました。

また、児童虐待根絶については、業務経験に応じた階層別研修の実施によって職員を育成していくとの考えが示されました。

幌延問題では誠意なし

日本原子力研究開発機構

からの三者協定に基づき、研究期間を20年程度とした当初計画の変更に関する事前協議の申し入れが道と幌延町に行われた問題では、三者協定の遵守を前提に申し入れ内容を精査するとの、誠意のない答弁でした。

米国協定も試算せず

北海道が大きな影響を受ける日米貿易交渉については、第2回定例会に引き続き、影響額を試算し、適時的な対応策を講ずるよう求めましたが、国に対して丁寧な情報提供を求めるといった、これまでの答弁を繰り返したただけでした。

カジノ、年内に判断

カジノを含むIR施設の誘致については、その判断基準が未だに明らかにされていません。しかし道は、IR誘致に偏向した資料を一方的に公開し、道民の意向を調査するとしています。

さらに誘致の判断については、年内に行うと明言す

るなど、「道民目線での判断」とした選挙時の約束が揺らぎ始めています。

私たちは様々な課題に対し、鈴木知事の考えを質しましたが、知事からは、第2回定議会同様、全てのしがらみを捨て、大胆な道政執行の展開に向けた考え方が示されることはありませんでした。

採択された決議・意見書

- ◆日米貿易協定に関する決議 ●国会における憲法論議についての意見書(自民党発議。民主・共産会派は質疑及び反対討論を行いました) ●自民党及び公明党会派の賛成(北海道結志会は退席)により可決されました ●診療報酬を引き下げず、地域医療を守ることを求める意見書 ●北方領土問題の解決促進等に関する意見書 ●タクシー運賃の自動認可運賃及び公定幅運賃の早期改定認可を求める意見書 ●地域医療構想に関する意見書 ●「北海道における持続的な鉄道網の確立」への対応を求める意見書

写真で振り返る北口道議の活動記録(7月~9月)



幌加内町の新そば祭り(8月31日)



戦争をさせない士別市民集会(8月7日)



高校生津波サミット in 北海道(9月10日)



「風っこ そうや」号のお出迎え(9月8日)



つくも水郷公園「池の水浄化大作戦」(9月28日)



きたごりんファームでの稲刈り作業(9月15日)



和寒町が参加したオータムフェスト(9月24日)



士別市が参加したオータムフェスト(9月24日)



→朝日水力発電所建設を北海道企業局に要請(7月11日)  
←北海道てん菜振興自治体協議会からの要請(7月11日)



# 北口ゆうこう奮闘日記

<http://y-kitaguchinet/>

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋して紹介します。(7月～9月分)

◆7月6日【アジア交流少年サッカー士別大会】▼今年で3回目となるアジア交流少年サッカー士別大会が開催された。今年の大会には、ベトナムから40名が参加、さ



アジア交流サッカー士別大会で全選手による記念撮影

らに士別市のほか近隣チームも参加し、全体で120名による大会となった▼今回の大会では、年齢により2つのリーグ戦で行い、9歳から12歳までは士別市のサフォークチームが優勝し、9歳以下ではベトナムのアーミティエチームが準優勝及び3位に輝いた▼閉会式では、各チームの優秀選手に記念ボールをプレゼント。そして全員で記念撮影して、再会を約束したところだ。

いたすべての皆さんに黙とうを捧げ、鷹栖中学校の7名が町民憲章を朗唱。その後、谷寿男町長の式辞と来賓祝辞が述べられ、鷹栖町の発展にご尽力された皆さんへの表彰者を紹介。そして50年を振り返る記念スライドショーを拝見し、住民センターのグラウンドオープンを祝つくす玉を割り、木下忠行議長の結びの言葉で式典を終了した。

に資する施設整備の促進、旭川十勝道路の整備促進、道路や河川の整備促進、十勝岳火山噴火対策と安全対策、過疎法適用外の小規模町村への支援など▼また意見交換では、農地の基盤整備とともに、担い手の確保や小規模農家への経営の確立などの必要性についてもお話しを伺ったところだ。

川内村の子どもたちに思いっきり外で遊んでもらおうと士別市が招待し、今年で9回目の開校だ▼現在川内村では、村に戻る政策を進めているが、川内小学校の在校生徒は39名で、少人数教育で授業を進めており、大規模校での授業を体験してもらおうと、士別南小学校での共同授業が実施された▼川内村の児童を代表した遠藤結さん(5年生)は、「士別市の友だちとたくさんお話をしたい」と抱負を語られた。



鷹栖町町制50周年記念式典

◆8月8日【鷹栖町町制施行50周年】▼鷹栖町の町政施行50周年記念式典及び鷹栖地区住民センターグラウンドオープン式典に出席▼式典の冒頭に鷹栖町の基礎を築

向山富夫町長から、令和2年度北海道に対する重点要望をお受けした▼この要望書では、農地防災対策の推進や十勝岳の自然環境保全



向山富夫上富良野町からの要請

◆8月28日【上富良野町長からの要請】▼上富良野町の

小学生10名(5年生5名、4年生5名)及び引率者5名を士別市にお招きし、「士別にコラッセ夏学校」が開校された▼2011年の福島原発の事故により、外出することができなくなった



士別にコラッセ夏学校の開校式

【コラッセ】▼ラグビーワールドカップでベスト8進出を決めた日本チームが、多くの感動を呼んでいる▼ラグビーでは、日本国籍を取得していても一定の条件で外国人が日本代表になれるのだ。現在、日本代表31名中15名が外国出身の選手である。これが伝統あるラグビーの歴史なのだろう▼国や宗教、性別、障がいの有無などに関係なく、多様性が求められる社会を創ることが、世界に認められる国家になると私は思っている。(ゆうこう)